

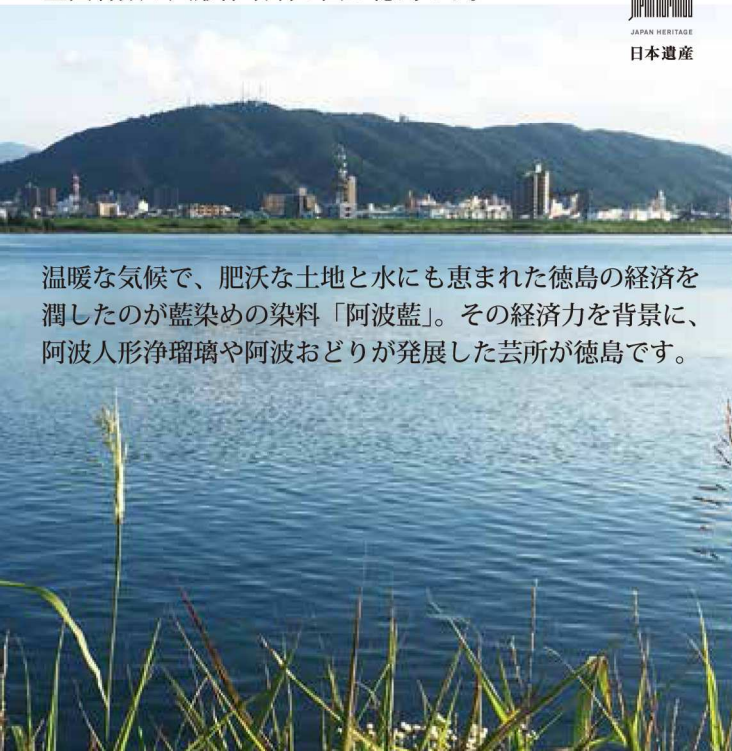


《人形浄瑠璃の国とくしま》

太夫の語り、三味線の音色、3人遣いの人形の3つが積み重なるように登場人物の心情を描く人形浄瑠璃は、繊細で緻密な日本人の感性が息づく芸能です。徳島では、今も全国で最も多くの人形座や、人形をつくる人形師が活躍しています。また神社の境内には、約80棟の人形芝居用の野外劇場「農村舞台」が残るなど、全国有数の人形浄瑠璃の国が徳島です。



温暖な気候で、肥沃な土地と水にも恵まれた徳島の経済を潤したのが藍染めの染料「阿波藍」。その経済力を背景に、阿波人形浄瑠璃や阿波おどりが発展した芸所が徳島です。



開館時間・入場料等

開館時間	9:30～17:00 (7/1～8/31は18:00まで) ※入館は閉館30分前まで
休館日	12月31日～1月3日 ※左記以外に臨時に休館する場合があります。
入場料	一般 410円(330円) 高・大学生 310円(250円) 小・中学生 200円(160円) ()内は20人以上の団体料金
定期上演 (約40分)	1月～2月 平日 11:00、土日祝日 11:00、14:00 3月～12月 平日・土日祝日 11:00、14:00 ※8月12日～15日(お盆) 10:00、11:00、14:00、16:00 ※土日祝日、お盆は太夫・三味線の生演奏、平日はCD音源 別途料金にて貸切公演も承りますので、お問合せください。

JR徳島駅から

- ・車で15分
- ・川内循環バスで「十郎兵衛屋敷」下車すぐ
(徳島市営バスターミナル7番乗り場から)

徳島自動車道 徳島インターより5分



徳島県立 阿波十郎兵衛屋敷

〒771-0114 徳島市川内町宮島本浦184
Tel. 088-665-2202 Fax. 088-665-3683
<http://joruri.info/jurobe/>



徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

Tokushima Prefectural Awa Jurobe Yashiki



阿波人形浄瑠璃の特色——農村舞台で映える人形

農村舞台や小屋掛けの仮設舞台など野外で演じられることが多かった阿波人形浄瑠璃は、文楽と比べて一回りも二回りも大きな、光沢のある塗りの人形を使い、「阿波の手」と呼ばれる大きな振りで演じられました。

野外の劇場で人形が映えるよう、人形をつくる人形師と、人形遣いが工夫と改良を加えてきた結果です。徳島では今も多くの人形師が活躍し、全国各地の人形芝居を支えています。



阿波十郎兵衛屋敷——傾城阿波の鳴門ゆかりの場所

人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」は、1698年に罪状も明らかにされないまま、藩の政策上の犠牲となって処刑された庄屋、板東十郎兵衛の名を借りてつくられたお家騒動の物語。阿波十郎兵衛屋敷は、板東十郎兵衛の屋敷跡であり、「傾城阿波の鳴門」ゆかりの場所です。農村舞台をモデルにした舞台で毎日、阿波人形浄瑠璃を上演しています。

◎展示室

阿波木偶や人形の衣装などの資料展示、農村舞台や箱まわしの紹介。人形遣いの体験もできます。



◎じょうるりショップ

「じょうるり」は、美しい宝石を意味する言葉。藍染めや吉野川の特産品など、徳島の美しい宝石を集めたショップです。

◎鶴亀の庭

板東十郎兵衛の築庭にかかる池泉式庭園。雌雄2匹の鶴と亀が見立てられています。



◎阿波人形浄瑠璃の上演

傾城阿波の鳴門

近松半二ら5人の合作で、阿波の人物が登場し、親子の情愛をリアルに描いたわかりやすい作品であることから、徳島で最も多く演じられる外題です。

順礼歌の段(定期公演)

徳島藩のお家騒動に絡んで、盗まれた主君の刀を詮議するために阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は名を変え盗賊に身をやつし、大阪玉造に住んでいる。そこへ巡礼姿の娘お鶴がはるばる阿波から父母を尋ねてくる。我が子とわかるが、ここで名乗りをしたのではお鶴にどんな災いがふりかかるとも限らない。涙をのんで別れるお弓。しかし、お鶴の歌う巡礼歌にたまらず後を追ってしまう。押さえられない母の情けが切ないくだり。

十郎兵衛内の段(特別公演)

お弓と別れた後、お鶴と十郎兵衛が出会う。金策に行き詰まっていた十郎兵衛はわが子とも知らず、金欲しさにお鶴に手をかけ殺してしまう。子が哀れ、父の哀れもひとしおの場面です。

